

「子育て世代の参画による湯田地区の閉校跡地を『昭和の再現となる』広場にする事業」の構想 教育文化分科会（４－１班）宇都、竹田、永吉(深)、枇杷、柳 私たちのグループは、小規模校区がだんだん廃れていく現状に「何とかしなければ！」という熱い思いを共有し、当初は「小規模校区の活性化を目指す！」というテーマを設定したが、「小規模校区の活性化とは？」どのような地域の姿なのかと考えていくうちに、子育て世代と地域コミュニティとの関わりと、その生活の現状についての問題意識が徐々に深まり、調査・研究のテーマを「<u>小規模校区の活性化～共働きしながらの子育て～</u>」とした。テーマについての情報収集を行い 現状として把握されたことは・・・●少子化に伴い、学校の閉校・統合が進み、子育て世代の地域生活環境に影響を及ぼしている。●小規模校区に居住し、共働きしながらの子育てには様々な生活課題がある。●地域ぐるみで子育てを支える取り組みで「公助」のみでは行き届かない部分がある。●人が集まる機会やきっかけが少なく、人々のコミュニティ意識にも温度差がある等だった。また、湯田地区の子育て世代（２１世帯）へのアンケートを実施した結果・・・「子育てに関して」（学校が）休みのとき一人遊びになる。地域の方々が声をかけてくださる。のびのびと育てられる地区である等「生活に関して」買い物が不便。車があるので不自由ではない等「環境に関して」自然がいっぱい、緑や花が多い、空気がきれい、のどか、温泉がある等。「閉校に関して」良いこととして、友達が多くなった、行事が多くなった。困ったこととして、バス通学になり、登下校の楽しさを味あわせることが出来ない、通学の時間がかかる等。「長期休みの過ごし方に関して」自宅、一人、実家、学童、塾、ゲーム、兄弟と過ごす等。「地区への改善要望に関して」自由に遊べる場所が欲しい、若者世代が少なく新しい提案が出来ない、日曜保育をしてほしい、高齢者が多いので何かあった時の体制、子供同士の交流の場が欲しい、病院が近くに欲しい等の回答があった。 集約すれば・・・「<u>小規模校区を活性化するために力になって欲しい子育て世代の若い人たちの背景には、力を発揮できない多様な生活課題がある</u>」ことが浮かびあがった。 課題として抽出されたこと・・・・・・・・《小規模校区の活性化に向けた子育て世代を支えるコミュニティづくり》 小規模校区の活性化に向けては、将来にわたる地域コミュニティづくりの担い手として期待される子育て世代の参画が必要であり、そのためには子育て世代の地域コミュニティとの関わりを希薄にしている背景にある生活課題の解決に向けた取り組み（①地域ぐるみの子育て世代を支える仕組み作り②子育て世代が参加できる会合や集会の開催③学校の統廃合が進み地区外の学校に通う子供たちの放課後生活の対応④共働きだと、親子のコミュニケーション時間も少なくなることへの対応。）による地域コミュニティづくりが必要である。<u>具体的には</u> ①開催時間等の縛りのない「こころ解放サロン」の開催 ②子育て世代が集い語ることができる「悩みぶちまけ会」の開催。（経済的・時間的・精神的に余裕のない子育て世代の話聞き、地域で何か改善出来ないか考える、語る機会を作る。）③放課後学童保育やグラウンド解放 ④親子レクレーションの開催などを実施する。この①～④の実施にあたっては・・・●実施する場所として廃校跡地を利用する。●子育て世代の参画により実施する。●高齢者で元気な方（ベテラン世代）に子どもたちをみてもらう等子育て世代の活動を支える地区の人たちの協力体制をつくる。（この協力体制が地域での子育て支援体制につながる。）●地区内の世代間交流や地区外の多様な人々との交流が促進されるよう実施する。ことを基本に置き活動する。そのことにより、活動の拠点となる廃校跡地が地域の人々のコミュニケーションの場となり、この場から地域生活者全員で《持ちつ持たれつ》の関係ができ、それぞれの人がお互いに、それぞれの地域生活課題の解決に向けたサービスを受ける側であり提供する側にもなる地域コミュニティづくりを進めていきたい。<u>ゆくゆくは</u>・・・は、廃校舎に昔の家具や農具を置いて「昭和」の香りのする展示コーナーやカフェなど、人が集まる場所にしたい。廃校跡地が地区外からも人が集まって交流する「広場」となり、イベント場として人が集まって何かする場所として提供してもよい。その場合は使用料をいただき収入源（活動資金）にする。湯田小の所有権は現時点では薩摩川内市である。 【昭和の再現】をなぜこの事業に入れ込んだか」というと、【昭和】は高齢者が生きてきた時代。うれしいこと・楽しいこと・悲しいこと・いろんな人生が詰まった【昭和】その時代のことを今の子供達に伝承していった欲しい。それが高齢者の生きがい（高齢者同士でも話題になり、話す機会が増える）になり、世代間交流（昔の人の知恵や遊びなど伝授してもらう）になり、空き家対策（昔の家具や農具を空き家から頂き、空き家が本当に空〔から〕の家になれば利用価値が増える。）にもつながればよいと考えたからである。		
(この構想の付加価値) ●これまで地域との関わりが希薄になりがちであった子育て世代の地域との関わりの場をつくり出し、コミュニティ意識が育まれる。●子育て世代の若い人たちの力が地域づくりに発揮されることにより、小規模校区に活力が生まれる。●子育て世代等若い人のコミュニティ意識が高まり次世代の地域コミュニティづくりの担い手の育成につながる。●子どもをベテラン世代に見守られながら活動できることにより、子育て世代の「こころの解放」と社会参加の機会の促進につながる。●子育て世代・ベテラン世代双方の生きがいづくりにつながる。●地域ぐるみで子どもを育もうという意識がより高まる。●住民のコミュニティ意識の高まりにつながる。●コミュニケーションの場が出来ることにより住民同士で語り合い・話し合う機会が増え世代間交流が促進される。●地区外の人との交流が促進される。●湯田地区の良いところが発見できる。●廃校跡地を利用することにより廃校がそのまま古くなっていかない。●空き家対策につながる。		(この構想によって利害が及ぶ人) 湯田地区のすべての住民（子育て世代の人、子どもたち、高齢者、障がい者等） 地区コミュニティ協議会役員 自治会長及び自治会の役員 地区外の人 コミュニケーションが不得意な人 ボランティア活動に参加したい人 イベント開催者
(長期的経営計画) ●地区外の子育て世代も対象とする「こころ解放サロン」「悩みぶちまけ大会」の定期的実施 ●観光ツアー 【湯田ち、知っちゃっけ～いたっみろかい。さるっみろかい「第１弾～第〇〇弾」】の実施湯田小→温泉→食事 地域の若手(子育て世代)もガイドなどで参画 ベテラン世代による「昭和の家庭料理」提供等の企画で行う。 ●場所提供型事業の調査研究 （一般の方々に学校やグラウンドをイベントに使うもらう）。 ●「昭和の再現となる」カフェ・展示館オープン 古い家具・農具展示館（昭和の匂いのするものを展示）	(中期的経営計画) ●「こころ解放サロン」「悩みぶちまけ大会」の定期的実施●活動資金につなげるフリーマーケットやバザーの実施●地域の方々と一緒に親子レクレーション実施（おはなし会・人形劇・（海）貝とり(山 ウォーキング・たけのこ取り（校庭・庭・体育館）ミニ運動会・ヨガ教室 等）●観光ツアーの実施に向けた調査・研究活動 子育て世代と共に地域資源の掘り起しを行いツアーの企画立案 ベテラン世代を中心に子育て世代等異世代交流の中で地産地消の料理・「昭和の家庭料理」再現の研究●「昭和の再現となる」カフェ・オープン●展示館オープンに向けた調査・研究活動「昭和の再現となる」グッズ収集にかかる情報収集。資金調達に係る調査研究。協力してくれる人材の募集 等●情報発信活動●地区外の子育て世代も対象とする「こころ解放サロン」「悩みぶちまけ大会」の試行的実施●観光ツアーの試行的実施。	(短期的経営計画) ●地域コミュニティとの連携に向けた事業構想の説明（地区コミュニティ協議会・自治会・地域のみなさん） ●コミュニティづくりに係る住民への生涯学習としての学習会の実施 ●子育て支援等地域生活課題の解決に向けたサービス提供側の意識づくりのための学習会の実施 ●子育て世代の「こころ解放サロン」の試行的実施（この時に、子育て世代の参画に向けてその世代の人たちの趣味・特技等も話したい） ●ベテラン世代の訪問活動 or お茶飲み会の実施（この時に、その世代の人たちの趣味・特技も話したい） ●高齢者と子どもたちとの交流会の実施（敬老会など） ●情報発信活動(（FM薩摩川内）フェイスブック、ホームページの作成・管理等)
実現のための制約要因 ・場 所・・・交通のアクセス(バス・おれんじ鉄道の利用) ・資金調達・・・ふるさと納税、地区コミ補助金(ビジネスコース) ・ボランティアの確保・・・最初はかなりボランティアに頼ることになる ・主たるスタッフの教育・・・講師の確保		
獲得すべき経営資源 人 的 資 源 湯田地区全域の住民(特に子育て世代の若手)(人権意識をもち、男女共同参画の視点で対応できる人)、様々な支援団体とネットワークを持った人 物 的 資 源 場所・・・湯田小跡地、高城西中跡地、湯田地区全域、諏訪神社、寺、温泉など 財務的資源 運営資金(使用料・通信費・飲食費・消耗品費・備品など) ⇒ふるさと納税を利用、地区コミ補助金を利用、HPで協賛金募る、空き家対策補助金 情報的資源 新聞、テレビ、ホームページ、ラジオ(FM 薩摩川内)、フェイスブック、各種メディアの利用、水引小・中、児童クラブ、幼・保との連携		
そのために必要ネットワーク化 自らの組織・グループの補強 人的資源としての一人ひとりであり子育て世代の若手の掘り起こし。湯田地区全域の住民。自営業者(温泉・店)の確認。専業主婦・主夫、就労していない人。一人暮らしでも夫婦だけでも。高齢者(特に２４時間湯田地区にいて、生活している人)の確認 趣味特技を持った人の掘り起こし。 他の組織やグループとの関係 湯田地区民生委員・児童委員、健やか支援アドバイザー、水引小・中学校の先生・PTA・学校応援団登録者、水引小児童クラブ、高城中央幼稚園、保育園（水引保育園・西風園）の先生・保護者。児童クラブ関係者、子供１１０番の家、自営業者、川内港、戦国村、川内こども劇場、子育てサロン、子育てサークル、病院関係、移動販売車(ヤクルト・食料品など)、宅配便会社、郵便局、青パト隊、スクールバス、見守り隊、フリマ、高齢者クラブ、シルバー人材センター、FMさつませんだい内（青マガ会員登録）リフォーム業者（畳屋・大工）、おれんじ鉄道、バス 特定の個人 病院関係、食生活改善推進員、グリーンツーリズムに詳しい人、スポーツ少年団の指導者、習字・そろばんなどの講師、小・中・保育園・幼稚園の先生、たもつゆかり先生、高崎恵先生、東川隆太郎さん、温泉ソムリエ、ヨガ・生涯学習の講師、HPの管理人 対行政 行政機関（保健センター、すこやかふれあいプラザ、生涯学習センター、図書館、少年自然の家、ファミリーサポートセンター、消防局）、薩摩川内市社会福祉協議会、サンアリーナ川内、まごころ文学館、宇宙館、湯田地区コミセン、自治会長、水引駐在所、消防団水引郵便局、かごしま子ども・若者総合相談センター、県男女共同参画センター、県共生・協働推進課、薩摩川内市観光協会		